

昭和医科大学横浜市北部病院

病院だより4月号

【巻頭言】 新年度のご挨拶	P1
【医学講座コーナー】	P2
【病院からのお知らせ】	P3
【ご意見・ご要望】【編集後記】	P4

【巻頭言】 新年度を迎えて 一地域医療への貢献を目指して一



【こどもセンター】
池田 裕一 副院長

桜の花が咲き誇り、新たな命が芽吹く季節となりました。今年の冬は例年以上に厳しい寒さでしたので、ようやく訪れた春の暖かさが心地よく感じられます。日頃より、当院の医療活動に温かいご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

近年、医療を取り巻く環境は大きく変化しており、少子高齢化、医療の高度化、働き方改革への対応など、地域中核病院に求められる役割はますます多様化しています。このような状況の中でも、安全で質の高い医療を提供し続けるため、様々な取り組みを進めております。

私は副院長として、ベッドコントロールと地域連携を担当しています。ベッドコントロールとは、限られた病床を適切に運用し、必要な患者さんが必要な時に入院できる体制を整える重要な役割です。

当院では24時間体制で救急患者さんを受け入れ、地域の砦として迅速な対応に努めています。また、近隣の医療機関からご紹介いただいた患者さんの受け入れも積極的に行っております。

一方で、入院治療を終えられた患者さんには、ご自宅での療養や近隣の医療機関での継続的なケアへとスムーズに移行していただけるよう、退院支援にも力を入れています。このように、入院から退院後まで、切れ目のない医療を地域全体で支える体制づくりに取り組んでおります。

自分の専門は小児科です。当院は横浜市の小児救急拠点病院として24時間体制で子どもたちの救急診療に対応しています。小児外科、新生児（NICU）を含む30名以上の専門スタッフとともに、救急診療から外科疾患、周産期医療まで、幅広い小児医療に対応しています。全国的には少子化が進んでいますが、この地域では子どもの数は微増から横ばいで推移しており、小児医療の重要性は今後も高いと考えています。これからも小児医療を通じて、地域の子どもの健やかな成長を支え、子育て世代の皆様も安心して暮らせる地域づくりに貢献したいと考えています。

災害時における医療提供体制の整備も当院の重要な使命です。毎年、トリアージ訓練や災害対策本部設置訓練を実施し、医師、看護師、薬剤師、事務職員など多職種が参加して、災害対応能力の向上に努めています。いざという時に備え、職員一人ひとりが役割を理解し、チーム一丸となって地域の皆様の安全を守れるよう、日々訓練を重ねています。私自身も、神奈川県小児周産期リエゾンとして、災害時に妊産婦さんや新生児、お子さんの医療を守る役割も担っています。

この春、当院も多くの新しい職員を迎えました。新たな職員とともに、地域の皆様に信頼される病院として、より質の高い医療の提供に努めてまいります。

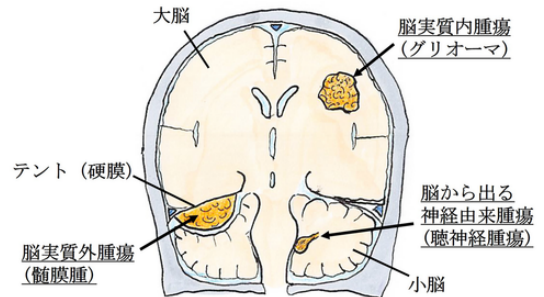
「脳腫瘍」と言われたら

－正しく知ることが第一歩です－

「脳腫瘍」と聞くと、とても怖い病気のように感じるかもしれませんが。

しかし、脳腫瘍にはさまざまな種類があり、ゆっくり大きくなるものも多く、早く見つければ適切に対処できる病気です。高齢の方でも治療や経過観察によって穏やかに生活を続けておられる方がたくさんいらっしゃいます。

脳腫瘍とは、脳やその周囲にできる“できもの”の総称です。代表的なものには、脳そのものから発生する**神経膠腫（グリオーマ）**、脳を包む膜からできる**髄膜腫**、聴神経にできる**聴神経腫瘍（前庭神経鞘腫）**などがあります。近年はMRIの普及により、無症状のうちに偶然見つかるケースも増えています。今回は、脳腫瘍の「症状」「対策」「注意点」について、わかりやすくお話しします。



① どのような症状があるのでしょうか

脳腫瘍の症状は、「大きさ」よりも「できた場所」によって変わります。

- ・これまでと違う頭痛が続く
- ・片側の手足が動かしにくい、しびれる
- ・言葉が出にくい、ろれつが回らない
- ・物が二重に見える、視野が欠ける
- ・ふらつき、歩きにくさ
- ・けいれん発作
- ・物忘れが急に進んだように感じる
- ・性格が変わったように見える

特に高齢の方では、「年のせいかな」と思って見過ごされることがあります。しかし、急に症状が出てきた場合や、徐々に悪化している場合は注意が必要です。

② 効果的な対策について

大切なのは、「気になる症状を我慢しないこと」です。まずは早めに医療機関を受診し、必要であればMRIなどの画像検査を行います。脳腫瘍と診断されても、すぐに手術が必要とは限りません。治療には大きく分けて次の方法があります。

- ・経過観察：定期的に検査をして様子を見る。
- ・手術で腫瘍を取り除く：外科的治療はこの20年で大きく進歩しました。手術ナビゲーション、術中モニタリング、蛍光観察システムなどにより、安全性と摘出率は向上しています。
- ・放射線・化学療法：悪性のものは再発しやすく、放射線や抗がん剤を併用します。しかし、悪性＝絶望ではありません。定位放射線治療（ガンマナイフ）や新しい薬の開発も進んでいます。高齢の方では、腫瘍の性質や体力、持病の有無を総合的に考えて、無理のない治療方針を決めます。近年は手術機器や放射線治療が進歩し、安全性は大きく向上しています。「年齢が高いから治療できない」というわけではありません。一人ひとりに合った方法を選ぶことが大切です。

③ 併せて注意した方がよいこと

脳腫瘍がある場合、いくつか気をつけたい点があります。

- ・転倒に注意：ふらつきや片麻痺があると、転倒の危険が高まります。室内の段差や滑りやすい床を見直しましょう。
- ・けいれん発作への備え：発作が起きる可能性がある場合は、医師の指示どおりに薬を内服し、自己判断で中止しないことが重要です。
- ・運転について：視野障害や発作がある場合は、自動車の運転を控える必要があります。安全を安全を第一に考えましょう。
- ・「物忘れ」と決めつけない：急な認知機能の低下は、脳腫瘍を含む他の病気が隠れていることがあります。
- ・一人で悩まない：ご本人だけでなく、ご家族も不安になることがあります。疑問や心配事は遠慮なく医療スタッフにご相談ください。

—おわりに—

脳腫瘍は、MRI検査の普及により偶然見つかることも増えています。腫瘍の種類によって対応は大きく異なりますが、適切な診断と治療により、多くの方が日常生活を続けておられます。大切なのは、「早めに気づくこと」「正しく診断を受けること」「無理のない治療を選ぶこと」です。気になる症状がありましたら、どうぞお気軽にご相談ください。私たちは、皆さまが安心して日常生活を続けられるよう、全力で支えてまいります。

(脳神経外科 和田 晃 教授)

HOSPITAL INFORMATION

◆令和7年度 認定助産師修了証授与式を行いました



認定助産師修了証書授与式の集合写真

当院で令和8年2月13日(金)に第12回認定助産師修了証授与式を開催しました。

認定助産師とは、助産師ラダーレベル2を取得した助産師が、胎児心拍確認・胎位・胎向確認の研修を6か月間受講し、さらに周産期専門医の厳しい筆記・実技試験を経て認定される資格です。今回で12回目を迎え、合計58名が終了しております。

今後も質の高い医療を提供できるよう努めてまいりますので、引き続きよろしく願いいたします。

◆がんサロンを開催します

4月17日(金) にがんサロンを開催します。

テーマは「がん治療中の食事の工夫、治療中の食事・お口のケア」です。

みなさんで一緒にお話をしてみませんか？

日 時：2026年4月17日 (金)

場 所：昭和医科大学横浜市北部病院 中央棟9階会議室

テーマ：がん治療中の食事の工夫、治療中の食事・お口のケア

【重要なお知らせ】

がんサロンの開催日について、2025年度まで第3木曜日に実施していましたが、2026年4月より実施日を**第3金曜日**に変更することとなりました。詳しい日時などはホームページに掲載させていただきます。皆様のご参加をお待ちしております。

患者さんからのご意見・ご要望

ご意見・ご要望	回答
面会に来ています。 緩和ケア病棟の横のトイレですが、荷物置き（かばん掛け）をもう少し低い位置に付けてください。 扉のフックが高すぎて届きません。	この度はご不便をおかけし申し訳ありませんでした。 いただきましたご意見を受け、早速トイレ内の低い位置にフックを設置いたしました。 どうぞご利用ください。 (回答部署：管理課)
複数の車椅子で、タイヤの空気が抜けている。メンテナンスをお願いしたい。	ご指摘ありがとうございます。 車椅子につきましては、開院前に点検を行い、適切な状態で配置するよう努めておりますが、この度は管理が行き届かず申し訳ありませんでした。 今後は、確実な点検と適切な配置が徹底されるよう指導を強化してまいります。 また、車椅子に不具合等ございましたら、お手数ですが、中央棟地下1階防災センターまでお知らせください。速やかに対応させていただきます。 皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。 (回答部署：防災センター)

編集後記

ミラノ・コルティナオリンピックに寝不足になり、World Baseball Classicsに夢中になっている間に冬はあっというまに終わり、春が足早にやって来ました。桜の見頃ももうすぐの予想です。毎年のことですが、冬季は入院、外来とも混雑することが多く、ご迷惑をお掛けする場面が多々あったと思われます。心よりお詫び申し上げます。

北部病院は2001年春に開院しましたので、今年で区切りの25周年となります。開院当初、病院周辺は空き地が目立ちましたが、この25年で急速に開発が進み、人口も大幅に増加し、街も成熟してきました。当院も引き続き、この地の地域医療を支える基幹病院として成長して参りたいと思います。今後もご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

(広報委員長 緒方 浩顕)

【受付時間・休診日】

受付時間/初診 月～土 8時30分～14時00分 ※11時00分～14時00分は事前予約制です。

受付時間/再診 月～土 8時30分～17時00分 ※当院の再診は予約制です。

面会時間 各病棟で異なります。詳しくはホームページをご確認ください。

休診日 日曜、祝日、創立記念日(11月15日)、年末年始(12月29日～1月3日)

【診療担当医表】



北部病院だより 第214号(2026年4月1日発行) 発行 昭和医科大学横浜市北部病院
発行責任者 坂下 暁子(昭和医科大学横浜市北部病院長) 編集責任者 緒方 浩顕(広報委員会 委員長)
〒224-8503 横浜市都筑区茅ヶ崎中央35-1 電話045-949-7000(代表)
北部病院ホームページにて最新・過去の『病院だより』がご覧いただけます。

